

# 高山の新しい玄関口

## 高山駅・匠通り(東西自由通路)が完成

平成26年から建設を進めてきた高山駅・匠通りが完成いたしました。新しい駅は改札が2階となっており、線路の東西を結ぶ匠通りに接続され、東西どちらからも駅を利用できるようになります。この匠通りは、歩行者専用道路として24時間いつでも通行可能となり、駅の利用としてだけでなく、東西の交流がより進むことが期待されます。なお、東口駅前広場など、すべての整備が完成するのは平成29年度を予定しています。

### すべての方が 利用しやすい施設を

新しい駅舎・匠通りは、ホーム、乗鞍口(東口)、白山口(西口)いずれもエレベーターとエスカレーターを整備しており、点字表示や外国語表記などにより、市民の皆様はもちろん、国内外から訪れる観光客の皆様、すべての利用者に安心して安全に利用していただける施設となっています。

### 高山らしさの表現

内装には、飛騨産のヒノキを多用し、「木の国・飛騨高山」を表現。改札を抜けると正面は開放感のある全面ガラス窓となっており、市街地を囲む里山の、緑の風景を望むことができます。駅の正面となる東側外

壁面には、町屋の雰囲気をもちこみ、格子パネルを設置しました。夜には、高山格子から漏れ出る灯りを意識した、演出照明を使い、落ち着いた外観を映し出します。

その一方、古い町並など高山にある施設をただ単に真似するのではなく、新しいまちのシンボルとなる魅力づくりと利便性の向上や賑わいが創出できる施設を目指しました。

### 伝統の継承を全国に発信

匠通りの壁面には、日本遺産「飛騨匠の技」の「木」ともに、今に引き継ぐ「1300年」の中で取り上げられた「引き継がれる匠の技」の集大成である、祭屋台をテーマとした展示を施し

ました。

構造の違う二種類の祭屋台の下段部分を実物大で製作し、通路をはさんで向い合わせに展示。既存屋台の模型ではなく、高山祭屋台の特徴を集めたオリジナルのデザインとなっており、実際の屋台修理を手掛けている高山祭屋台保存技術協同組合の皆様により、昔から引き継がれている技法により、ゼロから製作いただきました。

また、通路内に設置した14カ所の展示ケースには、各屋台で役割を終えた車輪や装飾品、実際に使用された大工道具などを展示します。これからお出かけいただく「まち中への期待」がさらに膨らむきっかけとなるようにと考えました。

